

美の生産者たち

作 池内風

野地未来（のじみらい）……派遣社員
原守（はらまもる）……派遣社員
御手洗美希輝（みたらい みきてる）……新人派遣社員
清野百合（せいのゆり）……OL
西島健二郎（にしじまけんじろう）……社員

複数の中小企業が入るビルの喫煙所。
上手面に喫煙所の入り口がある。
下手奥、上手中央にあるハイテーブルには、灰皿が設置されている。
奥の壁際には数脚の椅子とベンチが並び、バケツやモップなど清掃道具が置いてある。
くたびれた作業服を纏ったビル清掃員の野地と原が虚ろな目でタバコを吸っている。

野地 ……ハア。（と、ため息を一つつく）
原 ……
野地 ……ハア。（と、また一つため息）
原 ……

原、野地の靴紐がほどけていることに気づき、目線で合図する。

野地 ……ああ。（と、言いつつ結び直さない）
原、タバコを吸い続けている。野地、大きくタバコを吸い、吐き出す。タバコの火を消し、更のため息を一つついて靴紐を結び、立ち上がろうとすると立ちくらみを起こす。

原 どうした？
野地 いや、立ちくらみ。昨日寝てなくて。
原 マジか。実は俺も。
野地 ハア……
原 ……

野地、原、すべての体重を椅子に委ねて座る。しばらくすると大きな足音が

近づいてくる。

野地、足音を聞き急いで掃除を始める。原は急いでタバコの火を消す。入ってきたのは新人の御手洗。

二人、御手洗と分かりまた座り始める。

御手洗 サボるなら言ってくださいよ。(と、タバコを探すが無い)

野地 お前の目は節穴か？どうみたら俺たちがサボってるように見えるんだよ。

御手洗 いやいや、タバコ。(と、灰皿を指す)

野地 掃除道具だったらどうするんだよ。

御手洗 えっ？

野地 だから、(消したタバコを指して)あれが掃除道具だったらどうするんだよ。

御手洗 先輩、先端が800度近い火に覆われた筒状の掃除用具、ちよつと見たことないですね。

原 火炎放射器。火を放つ筒状の掃除用具だろ？

野地 これが火炎放射器だったらどうするんだよ。

御手洗 先輩、やばいっす、それタバコです。火炎放射器じゃないです。タバコです。

野地 ……ハア。(と、ため息)

御手洗、再びタバコを探すが発見できない。ふと、机の上にあるタバコに気づく。おもむろに一本取り、吸おうとするが、今度はライターがない。

御手洗 あの、ライター貸してくれませんか？

野地 なあ、それお前のじゃないだろ？

御手洗 バレなきや大丈夫ですよ。それよりライター。

野地 君はなぜ、この二人のかもしれないという選択肢が浮かばないのかな？

御手洗 えっ？えっ、マジっすか！？だってほらここ。見てください、この距離感。ここだったら確実に二人のどちらかです。(と、タバコを二人の中間地点に移動)でも、ほら。(と、元の位置に戻し、距離を示す。確かに微妙な距離にタバコは置かれている)

野地 ……

御手洗 野地さんですか？

野地 白昼堂々の犯行だったよ。

原 んー、タイホー！逮捕だぞ！！(と、突然元気にリズムよく騒ぎ出す)

野地 はははは。

原 タイホ！タイホ、タイホ、タイホ、タイホ！！！夕、イ、ホー！！

野地・原 ははははは。(と、大袈裟に笑う)

御手洗 ……

野地 ハア……(と、息を吐く)

御手洗 ……どうしたんですか？

野地 何かのきっかけで、一日気持ちが楽になることってあるだろ？今、それを狙ったんだよ。

原 そしたら逆にダメージを負いました。

野地 ハア……

御手洗 疲れてますね……

野地 昨日寝てないんだよ。

御手洗 作業でもしてたんですか？

野地 作業？

原 なに……作業って……

御手洗 ほら、僕ってバンドしてるじゃないですか？昨日も家帰ったあと歌詞書いてて。そういう作業かなって。

野地 30過ぎたら、突然不安で寝れなくなる時があるんだよ。(と、立ち上がり御手洗に近づく)

御手洗 そうなんです……

野地 それで、寝不足のまま靴紐結んだりしてしゃがむだろ？この高低差で立ちくらみが起きるんだよ！30は！(と、高低差を表現した上下運動で再び立ちくらみを起こす)

御手洗 なるほど……

原 っつか御手洗、バンドとかやってたんだ。

御手洗 はい！ロックなんですけど、月2でライブしてます！こんな感じですよ！(と、エアーギターを弾く)

野地 なんか、アルフィーみたいだな。

御手洗 アルフィー？

原 いや、THE ALFEE。高見沢俊彦。

御手洗 ……いや、ごめんなさい。

野地 お前、ロックやってるのにアルフィー知らないのか……

原 マジか……

御手洗 いや、名前は聞いたことはある気がしますけど、ちょっと顔が思い浮かばなくて……

野地 お前は所詮、そこまでの男なのさ。熱意も努力も勉強も何もかも中途半端。たぶん、曲聴いたらわかります。あとで教えてください！

野地 もういいよ！

……

三人に気まずい雰囲気漂う。
御手洗、話題を変えようとし、

御手洗

……そういえば先輩たちはここ以外に何してるんですか？漫画つか？

原

何、漫画って？

御手洗

いや、漫画？

野地

お前さ、この仕事はなにか夢持ってたたり、目標を持つてる奴が働く職場だと思

御手洗

ってんだろ？

野地

俺はな、中卒だよ。ハローワークに行って紹介されたところが、ベルトコンベアで運ばれてくる食用の鶏の首をひたすら跳ね続ける仕事か、このビルメンテナンスの派遣しかなかったんだ。鶏の首を跳ねるか、ビルの清掃。こっちだろ！す、すみません！

原

御手洗

俺は高卒だけど、転々とした結果ここに流れ着いた。一度、電車の整備の正社員になったんだ。嬉しかったあ。初めて自分が認められた気がしたんだよ！配属先は特殊処理班、通称マグロ拾いだっ。僕の仕事は、車体に飛び散った人間の肉片を洗う仕事だったのです。魂の抜けた人間は、ただの物だよ。

御手洗

……

俺な、孤児なんだ。親の顔を、見たことがない。

御手洗

……

原

俺は、母親がベトナム人。父親は、知らないおじさん。

野地

俺たちにとって唯一気持ちが悪になれる時間は、こうしてタバコを吸っている時なんだよ。煙が消える瞬間を眺めながら、俺も混ざって一緒に消えていきたくないあつて。

原

そんな俺たちに夢を追えると思うかい？生まれた瞬間、地獄の釜に落とされていたような生活環境で生きてきた俺たちに、希望を語れると思うかい？

野地

夢を持てるってことはさ、一種の才能だよ。その才能をさ、俺たちにひけらかすなよ！

原

その日生きることだけを考えて仕事している人間は、この国にだっているんだよ。

野地

上がらない時給。休んだ分だけ目減りする給料。貯金する余裕もないから職場は変えられない。そしていつか来る、契約期間満期終了のお知らせ……

原 飲み会行ったって3000円超えるか不安でまともに楽しめないんだぞ。

野地 年末年始、5日も休んだら給料マイナス4万かぁ。って、毎年落ち込みながら

過ごす、わかるか？おみくじで大吉が出たって心なんて動かない！

原 そうさ！正月、盆暮れが俺たちの給料を蝕むんだ！！

野地 輝け、日本の企業！サラリーマンよ、休まず働け！！そうじゃなきゃ……ビル

が汚れないじゃないか……

御手洗 先輩たちの気持ち、わかります……実は俺も……

綺麗にスーツを着こなしたサラリーマンの西島が入ってくる。

野地、原、御手洗は急いで掃除を始めるが、御手洗の掃除道具は原が使っている。どうにかして掃除しているように誤魔化すが、全く誤魔化せていない。

西島 さつきから騒いでいるのは君たちだろ？

原 すみません。

西島 ……(臭いに気づき)ここでタバコ吸ってましたね。

原 あっ、いや吸ってないです。(と、真顔で嘘をつく)

西島 あなたたちはここで吸ってはいけないことは会社から伝えられていないの？

原 いや、そうですね……(と、更に嘘をつく)

西島 ここは社を尋ねるお客様も使う共有スペース。君たち清掃員は、裏の専用喫煙所を使うように言われているよね？

原 ……すみません。

西島 すみませんじゃなくて。常識がある中で成り立ってる場所だからさ、清掃員だって関係無いは済まされないよ？どうするの、君たち見て気分を害して商談が失敗したら？責任取れんの？何億ってお金を君たちの会社が工面出来るの？

原 ……

野地 あの、以後気をつけますので。本当に申し訳ありませんでした。

西島 気をつけるじゃなくて。

野地 申し訳ありませんでした……(深々と頭を下げる)

西島 ……早く掃除してここを出てください。そろそろウチのお客様がいらっしやる時間だから。

野地 はい。失礼しました。

西島、去る。

野地、原、黙って掃除を始める。

御手洗、掃除する二人を見て、苛立つ。

御手洗 なんすか、何黙ってんすか？あんな態度取られてムカつかないんですか？

野地 ……

御手洗 ねえ！

原 お前だつて黙ってただろ。あいつに言われてる時。

御手洗 ……

野地 俺らだつてムカついてるよ。でも、怒らない。

御手洗 なんで？

原 御手洗、もう止めろ。

野地 あいつは、俺たちを見て優越感を得たかっただけなんだよ。こんなインチキ臭い中小企業の集まったビルのしがない会社の正社員。あいつはきつと外に出たら、大企業で働いている奴らに今と逆の立場で見られている。だから、俺らを見て安心したかっただけなのさ。

御手洗 なんであいつの擁護してるんですか！

野地 お前、擁護とかいう言語知ってるんだな。もつと馬鹿なやつだと思ってたよ。

御手洗 いやこう見えて、歌詞とか書いてますから。

野地 まあとにかく、あいつは優越感に浸ったわけだけど、いつか気づくよ、それは写し鏡で、本来の自分の立場も同じだつて。そう認識したあと必ず嫌悪する。

御手洗 じゃあそれまでずっと耐え忍ぶんですか？

原 おい！

御手洗 ムカついたこと言われても、あいつはいつか後悔するって思いながら。虐げられてるのは俺らですよ！

野地 そう思わなきゃやってられないんだよ！

御手洗 ……

野地 ……俺たちはな、嫌いにならない努力をしてるんだよ。

御手洗 どういうことですか？

野地 人間は、嫌われないための努力も必要だけど、嫌いにならない努力も必要なんだよ。

原 もう止せ……

野地 嫌いなやつが悪口を言うと、次の日本当に嫌いになってるだろ？疲れたあ、疲れたあつて口に出している内に、必要以上に疲れてくるだろ？今ここであいつへの感情を口にしたら、顔を見るたびにイライラしてしまう。それを最小限に抑えるために、あいつの気持ちと立場を考えて理解してやる。そう押し殺して心を守ってるんだよ……

原 野地！

野地 ぐああああああ！！でもこの自己防衛のカラクリを喋ってしまったから、俺の心が疼き始めている。本当は自分の心を守りたくて、受け入れよう受け入れようとしたかっただけなんだ！

原 マズイ！野地、そっちは行つてはいけない領域だ！病むぞ！！

野地 なんだよ、なんだよ！どうしたら心も身体も安定して暮らせるんだよ？どうしたら！

原 働くんだよ！必死に働いて、ビル磨いて、心もキレイになって、ここから抜け出すんだ！

野地 だからどうやって！！「トイレを磨くことは、心を磨くこと。」なんて言うけど、荒んでいく一方じゃないか！何が悲しくて、ふんぞり返ったやつらの便器のお残りを必死こいて拭かなきゃならないんだ！

原 それが俺たちに残されたたった一つの仕事だからだよ！生きるためだよ！

野地 生きてて何か良いことあるんですか！？こんな人生でなんで生きる？誰のために、何のために……

原 お前のせいだ！（と、御手洗を指し）

御手洗 ええ！！

原 お前が思考に入り込み、内鍵を開けさせしなれば、パンドラの箱は開かずに済んだ！

御手洗 野地さん！すみません！！

原 バカヤロ！！

御手洗 すみません！（と、野地に謝る）

原 俺もだよ！俺の心も、ザワザワしちゃってんだよ！！うああああああ！！安定した収入があつて、恋人がいて、休みの日には一緒に映画館に行きたい！普通のこと……普通のこと……いいんだよ！

野地 （原の言葉でパンドラの箱が開き）休みが欲しいけど、休みが怖い。休んだら、考えちゃう！

原 （野地の言葉でパンドラの箱が開き）死ぬ恐怖より生きる辛さが勝ってます。でも、死ねないんです……

以後、お互いの言葉で心のパンドラの箱を開け合う。

野地 なんで働くの？死なないために、生活するために働くんです。死にたいのに、生きるための選択肢を選んでる。なんで……

原 生きることは本能です。だから生きるのです。納得できるか、そんな曖昧な論

理で！！この家庭環境は誰がどうやって作り出し、なぜここに僕が生まれ
た！！生きるための本能を問う前に、生まれてきた理由を教えろ！！！！

御手洗 先輩！やばいです！キチガイだと思われます！

野地 どうやったたら……幸せになれるのかな？どうやったたら……（と、ゾンビのような
姿で御手洗に縋っていく）

原 ちよつと、ちよつと！

そこへOLの清野が入ってくる。

清野 ……お疲れ様です。

野地 あっ……お疲れ様です……

野地、原、御手洗、掃除を始めるが、全くはかどらない。

野地と原は涙を溢している。

清野、ライターを出す火がつかない。

御手洗 あっ、良かったら。（と、ライターを探す）

清野 ありがとうございます。

御手洗 あっ、俺もないんだった。

清野 ああ。

御手洗 先輩、ライターあります。（と、原に聞く）

清野 ああ、大丈夫です。ちよつと息抜きしに来ただけなので。

御手洗 タバコとか吸うんですね。

清野 ああ、よく言われますね、それ。（と、にっこり笑う）

野地、原、清野の可愛らしい笑顔に締め付けられるような心のザワつきを感
じる。

清野 いつもここを掃除してくださいありがとうございます。この建物の唯一の逃
げ場はここなんです。淵までキレイになった灰皿や月ごとに変わる消臭剤の香
り、ピカピカな机。一つ一つに人の優しさを感じて、心が落ち着くんです。
それが、僕らの仕事ですから。

原、突然格好つけた野地に唾然とする。

清野 息が詰まるところしてここに逃げてくるんです。元々吸わなかったんですけど、あの空間を抜け出すきっかけが欲しくて。今では、ここでタバコを吸うときが唯一気持ちに楽になる時間なんです。煙が消えていく瞬間を眺めながら、私も混ざって消えていきたいなあって。

野地、先ほど言った自分の言葉と全く同じことを言っている清野に運命を感じ始める。

原もひどく共感する。二人は清野を抱きしめたい衝動に駆られる。

御手洗 今日、なんでここに来たんですか？

清野 ああ、今日は一つ大きな商談があって、社内全体が接待モードなんです。そういう時の人間って欲まみれって感じがモロに出て、本質が見えるようで何だか悲しくなるんです。

野地 分かるわあ……

原 ここにいて、大丈夫なんですか？

清野 たぶんだメですね。でも、大丈夫です。（と、にっこり笑う）

野地、原、清野の笑顔にいちいち心の衝動を覚える。御手洗も次第に心を奪われていく。何か話を続けたいが、次に何を聞いていいか分からない。

清野は、自然体でボーっとしている。

原 あつ、あの、普段何されてるんですか？

清野 仕事ですか？

原 あつ、いや、お休みの日……

清野 ああ。よく寝てますね。

原 へえ！なんか、コーヒークップ片手に広いテラスで本とか読んでそうですけど。ははは。部屋、ワンルームなのでテラスなんてないですよ。お布団の中で鳴らない携帯を眺めながらずっとゴロゴロしてます。

原 そうなんです。意外！

野地 ご出身はこちらじゃないんですか？

清野 三重です。津市っていうところなんですけど。

野地 えっ？

清野 津市です。津。

野地 ああ、津市。福井の下あたりですよ？（と、格好つけて知的ぶる）

清野 あつ、違います。奈良県の横です。

野地 ああ、そうだ！奈良の横だった！（と、恥ずかしさを誤魔化すためにチャラける）

気がつくとも原が冷たい目で野地を見ている。

野地、恥ずかしそうに原と目を反らす、今度は御手洗と目が合い気まずい。

原 じゃ、一人で住んでて、ご両親は心配されてるんじゃないんですか？

清野 うーん。そういう親じゃないかもなあ。

原 へえ。

清野 私の父親、甲斐性なしかったです。（と、にっこり笑う）絵に書いたような父親で毎日昼から酔っ払って、母親はずっとお金の悩みを抱えてました。リアルにあるんですね、給食費が払えないって。（と、笑う）小学校でも洋服が汚いってよくいじめられてました。

原 ああ……

野地 お父さんとは今は？

清野 父は3年前に食道ガンで亡くなりました。死ぬまでの数年は改心して優しくなっただけです。

野地 失礼なこと聞いて、すみませんでした。

清野 いえ。（と、にっこり笑う）母はまだ健在ですが、父の影響で心を少し。だから、娘の心配をする余裕はまだ。それに足腰が弱くてパートも長くは働けない。だから私が働いて楽をさせてあげないといけないんです。そのせいで、やりたいことに挑戦したこともないんですけどね。（と、にっこり笑う）

野地、原、気づくと頬に涙が伝っている。

清野 なんですすかね、こんな話普段誰にもしないんですよ。こんなに楽に話したいって思ったのは初めてです。不思議ですね。（と、恥ずかしそうにハニカミ、上目使いでチラリと三人をみる）

野地 天上人が、降りてきた……

清野 えっ？

野地 僕は、孤児でした！

原 僕の父親は知らないおじさん！

御手洗 あの、実は……

野地 だから、あなたの気持ち、よくわかる！私、わかるよ！

原 あの、もし、もしも、不快でなければ、一度ご飯に行きませんか？話しましょうよ！一度、一度でいいですから！

野地 うん！ぜひ、一緒に！
原 えっ！お前も行くの？
野地 ……この流れで俺入ってないの！
清野 行きましょ！みんなと一緒に行きましょ！
御手洗 僕もいいんですか？
清野 もちろん！
御手洗 うわあ！（と、子供のように喜び、思わずハグをする）
清野 あはははは。（と、ハグを返す）

野地、原、意表を突かれ驚く。自分たちも混ざりたい気持ちになるが、勇気が出ずにモジモジしている。

清野 あっ、じゃあ連絡先を。（と、ポケットから名刺入れを取り出す）
野地 あっ……
清野 ん？
野地 俺たち、名刺持ってないんです……
清野 ああ、すみません。
野地 あっ、いや、謝らないでください……
御手洗 あっ、俺、バンドのやつならありますよ！（と、財布から名刺を取り出す）
野地 えっ？

原 お前、ロックなのに名刺交換すんの！？
御手洗 今の時代、ロックだろうがなんだろうが、こういうのが大事なんです。それが今、ここで証明されてるでしょ？

御手洗 清野と申します。（と、名刺を渡す）
清野 清野と申します。（と、名刺を渡す）
清野 （名刺をみて）音楽されてるんですね。
御手洗 はい、世の中をひっくり返したくて。
野地 ははは。（と、小馬鹿にしたように笑う）
御手洗 ……僕の母は、父の愛人でした。
原 えっ……

御手洗 僕はその間に生まれた子です。父親の影響を感じられるのは誕生日に届くおもちゃだけでした。

原 お前……
御手洗 それならくれない方がまだマシですよ。父親がいないなら、いないままでいい。一年に一回プレゼントが届くたびに思い知らされるんです。ああ、僕には

みんなみたいな父親はいないだったって……

原 プレゼント貰えて、存在を確かめられるだけマシだよ。俺、そんなことすらないんだよ。

野地 俺なんて、両親に会ったことない……

御手洗 ……そうっすね。お二人に比べたら僕なんてまだまだかもしれないですね……

野地 そうさ！だから元氣だせてわけじゃないけど、まだマシさ！

原 そうだよ！俺なんて生まれてしばらく、日本語教えてくれる人もいなかったんだよ……

野地 俺なんて最初、苗字すらなかった……

原 俺の父親は、知らないおじさん、会ったこともない……

清野 あの、私も、実は初めての相手が父……

野地 ダメエエエエ！！！！それ以上言ったらダメエエエエ！！！！返って来ちゃってる！言葉に出したこと、全部ブーメランにみたいに返ってきて、心傷つけてるよ！！僕たちは、僕たちだけは慰め合っつていかなきゃ！

御手洗 俺の父親は！

野地 御手洗！！

御手洗 俺の父親は、本当は違う人だったんです！あまりにも顔が似てなかったみたいで、DNA鑑定させられたら、当時母親が愛人契約を結んでいたもう一人の男の子供だったんです。そのおもちやですら、父親のではなかった！！

野地 御手洗！！！！

御手洗 僕も散々虐げられてきました！イジメもちろん経験しました。今でさえまだ、その対象です！！僕がひっくり返したいのは世の中の仕組みそのものではない！世の中の僕みたいな境遇の人間に対する偏見をひっくり返したいんです！だから、僕は音楽をするんです。みんなが見ている世界をひっくり返すために！

原 御手洗……

清野 私……聴きたいです。

御手洗 えっ？

清野 御手洗さんの音楽。聴きたい。

御手洗 えっ……ここで？

清野 はい。

御手洗 今？

清野 はい！

御手洗 ……わかりました。

野地 ち、ちなみに、タイトルは？

御手洗 「死のデストロイヤー」です！

野地 ……
原 ……
清野 ……
御手洗 ……今度にします？
野地 そうだな。今じゃないかもな。
原 うん、今度だな。
清野 ……

野地、原、清野、何となく気まずい雰囲気能耐えかね、少し離れたところへ移動する。

御手洗 ……いや、もうダメです！今歌います！！
野地 なんて！？今度がベストだって！
御手洗 いや、なんかこの空気耐えられないっす！俺、今歌います！！
原 止める！！
御手洗 聴いてください！死のデストロイヤー！！
野地 うわああああ！

御手洗、マイムでギターを弾き始める。歌いだそうとすると西島が入ってくる。

西島 君たち！いつまでいるんだ！掃除が終わったならさっさと出て行きなさい！
野地 すみません！！
清野 西島さん……
西島 ああ、ここにいたのか。
清野 すみません。
西島 まあ大丈夫。準備ほとんど終わってるから。
清野 すみません。
西島 (少し清野を意識しながら)君たちさ、遊びじゃないんだよ。君たちと違って一日
一日真剣に生きてるんだ。わかりますよね？
一同 ……
西島 さっ、早く掃除して。お客さん来ちゃうから。

野地、原、御手洗、モップを手に持ち、そそくさと掃除を再開する。
清野、喫煙所から出ようとする。

西島 清野さん！

清野 はい……

西島 こんな時にアレなんだけど、今週の式場の見学だけだよ。

野地、原、御手洗、ピタリと動きが止まる。

清野 健二郎さん、時間無いんじゃないんですか？

西島 いや、ちよつとなら大丈夫。

野地 健二郎さん？(と、微かな声で)

清野 会社ではお互いのこと話さないって決めてませんでしたっけ？

西島 いや、最近忙しくて、全然話出来てないだろ？

清野 そうなんですネ。(と、少し嬉しそう)

西島 式場さ、俺の家からの方が近いでしょ？だから、今週末、家に来ないかな？次の日一緒に行こうよ。

清野 最初からそのつもりでした。(と、にっこり笑う)

西島 えっ、本当？あつ、そう！じゃあどっか食事行こうよ。美味しいところ探しておくから。

清野 ご飯作りますよ。最近外食ばっかりって。

西島 えっ、嬉しい！

野地、原、御手洗は、手に持っているモップに支えられる形で徐々に崩れていく。

清野 何がいいですか？

西島 そうだなあ。いや、でも任せるよ。

清野 決めてください。

西島 いや、楽しみにとっておく。赤ワインでも買っておくよ。

清野 じゃあ、それに合わせた料理にしますね。

西島 それいいなあ。ありがと！

清野 楽しみです。(と、にっこり笑う)

西島、清野の手を握る。

原 あつ……(と、微かな声で)

西島 ああ、今日の商談、うまくいく気がしてきたよ！

清野 良かった。頑張ってくださいね。

西島 夜、電話出来る？

清野 今日？

西島 うん。あつ、でも遅くなっちゃうかも。

清野 大丈夫です。お布団の中でパジャマ着て待ってますね。

野地 パ、パジャマ……(と、微な声で)

西島 いつもそうやって寝ちやうだろ。

清野 今日はちゃんと起きてます！

西島 本当かなあ。でも、眠かったら寝ていいからね。

清野 はい、大丈夫です。

西島 あつ、そろそろ僕も準備しないと。じゃあまた今夜。

清野 はい。

西島、清野、少し名残惜しそうに互いを見つめ合う。手を離し、

西島 君たちも、はやく掃除。ねっ？

一同 ……

西島、去る。

野地 婚約者、ですか？

清野 ……はい。ビックリしますよね？

野地 えっ？

清野 ほら、欲まみれの人間。自分でも何でだろうなって思いますけど。

野地 好きなんですか？

清野 好きなんです。どうしようもなく。

野地 ぐうううう！

清野 ここは小さい会社ですけど、あの人はその中でもエリートで周りからの信頼も厚い。私の中で生活を安定させるのは、小さい頃から組み込まれた外すことの出来ない価値観なんです。これはもう理屈どうこうではなくて。

原 お金は大事です。でも心も大事です。

清野 彼、家では凄く優しいんです。人に甘えられたのは彼が初めてです。

原 ぐうううう！！

御手洗 それは、今だけではないでしょうか！？結婚してあなたを手に入れたらその優

しきは失われるのではないのでしょうか？

清野 いいんです、それでも。こんな私の過去を受け入れてくれて、抱きしめてくれる人は他にいなかったんです。

野地 ここにいるじゃないですかあ……（と、絞り出すように）

清野 私もそろそろ行きますね。あつ、連絡ください。必ずご飯、行きましようね！（と、三人とすっかり目を合わせ、少しハニカミ、上目使いをした後、去る）

果然とする三人。

御手洗、不意に手に持っている名刺に気づき、怒りが込み上げてくる。

御手洗 こんなものいるかああああ！！！！（と、名刺を破り捨てる）

野地 止めるおおお！！！！（と、紙切れを集める）

原 御手洗くん、君のさつき言ってたおもちやの話、よく理解したよ。

野地 えっ？

原 どうせうまくいかないのなら、出会わせるなよ！その気もないのに、好きにさせるなよ！！！！

野地 止める！！

御手洗 何が、今度ご飯行きましようだあ？結婚相手がいるやつとの飲み会ほど、無意味なことはない！！！！

野地 違う！違うぞ！！

原 何スカしてんすか？まだおこぼれがあるとでも思ってるんですか？

野地 違あああう！！！！！！

原 ……

御手洗 ……

野地 彼女は、俺たちの仲間だよ！！

原 どこがあだああああ！！

野地 考えてみるよ！必死に生きてきた！俺たちが一番わかっているはずだろ？この苦しみの中で、一つの光が差し込んだなら、迷わずそれを選択するだろ！！

原 また出たよ、お前の受け入れ精神があああ！！

野地 違あああう！！あの子を助けなきや！！

御手洗 助けるだあ？そうやってええ！！

野地 見ただろあの男の不気味な優しさ。あれは将来、DVに走る顔つきだ。その前に助けなきや！

原 彼女はそれを望んでないだろ？

野地

洗脳されてるんだよ、あいつに！きっと彼女自身悩んだはずだ、光が差し込んだときそれを掴むべきかどうか？彼女はきつと無理やり理由をつけたんだ。お金じゃない、愛情だと。

原

愛情だあ？

野地

そう、愛情があるからと言いかせ、生きる手段として金を掴んだ。その時にあいつはきつと優しく微笑んだ。もう疑わない。あいつは自己演出した優しさで、彼女の意地汚さを解消させた。典型的な詐欺師だよ！いや、教祖さまだ。なんでそんなことがわかるんですか？想像ですよ。

原

いや、絶対にそうとしか考えられん。受け入れ精神の染み付いた俺たちには、彼女の気持ちはよくわかる。絶対にそうだ！

御手洗

だからってもう俺らには関係ないでしょ？

野地

バカ野郎おおお！！仲間が宗教にはまってしまったとき、やることはただ一つ！自分の命をかけても強引に取り戻す！！俺は彼女を奪還し開放へ導く！！なんでそうなるんですか！

御手洗

もう、目を覚まそうぜ。俺は常々掃除しながら思ってたよ。社会から見て汚れたゴミクズの俺たちが、なぜ必死にキレイにしないといけないんだろうって。

野地

俺たちがキレイにしてるのって本当にビルだけかなって？俺たちがキレイにしているものは、もう1つ他にあるって。原、お前ならわかるよな？

原

……ああ。(と、頷くがさっぱり分かってない)

御手洗

原さん、本当ですか？

原

……(コクつと、頷くが、やはり分かっていない)

野地

そう、俺たちが、キレイにしているもの。それは世界そのものさ。

原

(やはりな！と言わんばかりに頷くが、やはり理解できない)

野地

原、御手洗に説明してやってくれ！

原

……いや、そこはお前に任せる。あとから美味しいところ頂くようなマネなんか出来ないよ。

野地

おれ、お前のそういうところが好きだよ。

原

ああ！

野地

御手洗、「キレイ」っていう概念はなぜ生まれると思う？

御手洗

えっ、なんすか急に。

野地

いいから！

御手洗

いや、なんでしよう。心が荒むから？

野地

おっ、ちょっと惜しい。センスあるよ。なあ！(と、原に)

原

ああ！(と、やっぱり分かっていない)

御手洗

僕がキレイと感じるときは、いつも疲れている時です。

野地　　いいか、キレイという概念は反する「汚い」という概念があるからこそ、美しく感じるんだよ。考えてご覧よ！世の中全てキレイなものになっちゃったら、もうそれは当たり前前の光景だよ。お前のさっき言った、疲れてるもそうさ。負荷があるからこそキレイなんだよ！つまりどういうことかというところ。

原　　俺たちが、キレイを生み出している！（と、ようやく繋がる）

野地　　そうだ！この国の汚点である俺たちがいてこそ、美しい人間はより美しく見える。美しい景色もより美しく映る。つまり、俺たちは、美の生産者だよ！俺たちは、アーティストだ！！なんで汚れた俺たちが必死にビルをキレイにしているんだらうって、常に引っかけた。そうさ、俺たちは、この世の中を汚すために生まれてきているのだから、本来の役目の全く矛盾した仕事をしてる。俺は今それに気づいた！！俺たちは、本来の目的に従事し、この世界を汚して、汚して、汚しまくる、美の生産者として活動していかなきゃならない！！そうだよな！

原　　ああ！

野地　　まず第一は、清野百合の奪還！！あの子は死にかけてる！仲間を助けなきゃ！助けなきゃって、何する気ですか！

野地　　命をかけるって言っただろ！！人間、手と足さえまともに動けば何でも出来る。

野地　　（と、モップを手にする）

御手洗　　まずいです！さすがにそれはダメですって！！

野地　　こういう汚れ仕事こそ、俺たちのアートだろ！！

御手洗　　意味が分かりません！

野地　　なあ、俺たちがやらずに、誰があいつをやるんだよ！！

御手洗　　ダメですって！！

野地　　反逆者とみなし、お前からやるぞ！！（と、モップを突きつける）

御手洗　　超えてはいけない一線があります！！

野地　　誰が決めた？その一線とやらは誰が決めたよ！なぜ人を殺してはいけない？考えてみる？答えなんてないだろ？

御手洗　　ダメです！それだけはダメです！！

野地　　御手洗、思い出せ！！お前どんな思いで生きてきた？自分に問わなかったのかよ、今までの生活環境を！誰がお前をまともに愛した？誰がまともにお前の声に耳を傾けた。この世の中で俺たちは、端から人間としての権利を与えられていないだろ？そんな俺たちが、なぜモラルやルールを気にする？権利が無いのに義務だけ押し付けるな！道徳を押し付けるな！！この世界には、モラルの平等性などないのだ！！

御手洗

……

野地 俺たちの正義を邪魔するやつは排除するのみ。もう一度聞く。お前はどこうする。

御手洗、勢いに負け、崩れ落ちる。

原 俺は……

野地 わかっているよ、原。やるのは俺だけだ。

原 えっ。

野地 これから何をしようとしているか、それは俺が一番理解している。俺が全てを背負うよ。御手洗にだって端からさせる気なんてないさ。

御手洗 先輩。

野地 まあ、せめて待つててくれよ。俺の帰りをさ……

原 ああ！

野地 さあ……どこぞやの神よ、誰でもいい！この俺に力を与えたまえ！今このとき一瞬だけでいい！！俺たちが大義があるのなら、きつと味方してくれると信じている！！さあ、行こう！この手で、世界をもっと美しく！もっとキレイに！！俺たちは、美の生産者だああああ！！

謎の声 その思い私が手助けしよう！！！！

と、どこからか声が聞こえる。その声は野地にしか聞こえない。

野地 この声は？

原 野地？

野地 聞こえる！声が聞こえる！

謎の声 お前は間違っていない。美しい世界を作る。素晴らしい大義だ！！

野地の目の前に突如、軍服を着た男が現れる。

立っているのはチェ・ゲバラ。

しかし、野地にしか見えていない。

野地 あ、あなたは！！チェ・ゲバラ！！

原 どうした、野地？

チェ 私がお前の力になろう！同士よ！！

野地 チェ・ゲバラが味方なら、この戦いか勝ったも同然！！大義は我ら、美の生産者にある！！！！うおおおお！！！！

原 野地！！

幕

アナウンサーの声は徐々に消えていく。